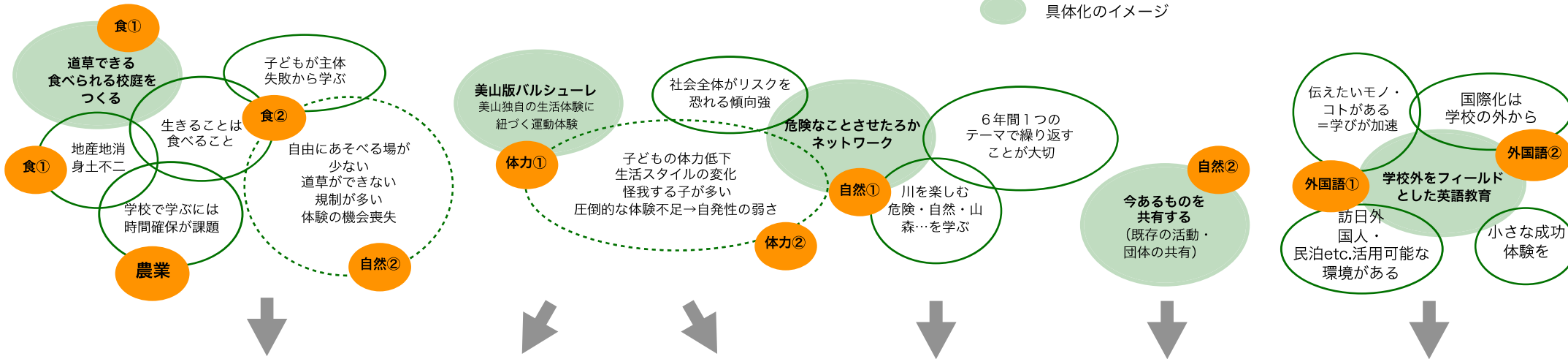


熟議まとめ (ダイジェスト)

グループごとのディスカッションの内容をもとに、「同じテーマで共通する視点」「テーマは異なるが共通する問題意識」を集約させながら、暫定的な整理を試みました。

- 子どもを取りまく問題意識
- テーマに関する問題意識
- 具体化のイメージ

2019.12.28 Tao舎/大滝あや



グループ	食①+②+農業+自然・環境②	体力①+②		自然・環境①	自然・環境②	外国語・国際理解①・②
ねらい	食育の日常化 校庭を活用した食の循環 (育てる・つくる・食べる…)の実践	日常的な遊び・生活動作を通じた 「身体づくり」「体力がつく」の実現		子どもが怪我をする等のリスクを 引き受けることに対する大人側 (学校・保護者等)の意識醸成		生きた外国語教育の実現 (コミュニケーション力/自己 肯定力/地域理解)
WHAT 具体化の イメージ	道草のできる 食べられる校庭づくり	登れる木/遊べる森 等の環境づくり (アスレチック)	・美山独自の生活体験に紐づく 運動体験の体系化 (薪割・農作業など直結する 動作の洗い出し)	危険なコトさせたるか ネットワークの形成 ↓ ネットワークで体験の機会提供	既存の団体間のネットワークと 見える化	土曜活用等で小・中学生が企画する 来訪者向けツアーを実施 小中学家庭での民泊受け入れ・学校 間交流での英語学習等
WHO 協働の体制	・空間デザイン&”育てる”は子どもたちの手で ・地域の力を総動員(詳細はグループまとめ参照) して場づくりを行う	美山全体で協力を募り、得意 な分野の動き方を指導		(体験による成長には)リスクを 負うコトへの合意形成を行う	体験活動の機会提供に関わって いる団体等に声をかける	各専門性を発揮して仕組み化 ・カリキュラム化=学校・教委 ・フィールド=地域(主に北村) ・人材=DMO(訪日来訪者数増) =ALT教員の配置(観光と兼務)
12/25の まとめの際に スタッフ間で 話したこと	・地域協働の旗印としての共感性を得やすく、 多様な人が関わられる余白があるのではないかと ・子どもたち自身の声を大切に、子どもを主体者に		意識醸成の意味では、学校教育と家庭教育が両輪になる必要有。 PTA等保護者が一堂に会す場を機会とするのも一案ではないかと		(案)体験活動に関わる団体総 図の作成/ネットワークミーテ ィングの実施 →学校協働以外の枠組みで実現 させる?	実現性の鍵は 教委×DMOの協議か・・・